

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー							
科目名	危機管理学研究演習 I						
担当教員	中村 良						
対象学年	1年,2年	開講学期	前期				
曜日・時限	金 4						
講義室		単位区分	必				
授業形態	演習	単位数	1				
科目大分類	統合演習						
科目中分類	危機の大学院修士課程カテゴリ						
科目小分類	4統合・演習						
科目の位置付け（開発能力）	■ D P コード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（20%） DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（20%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（40%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（20%）						
教員の実務経験	ありません。						
成績ターゲット区分							
科目概要・キーワード	危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自らテーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行います。本演習では、危機管理学、法学に関する研究手法の修得、テーマの探求、先行研究の評価、資料の収集とテキスト分析を含む基礎的研究プロセスを扱います。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、意欲・経験・適正、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とします。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：研究手法、テーマ探求、先行研究、資料収集、資料分析						
授業の趣旨	■副題 危機管理に資する企業法学・経済法学的研究の研究計画作成 ■授業の目的 危機管理と企業法学・経済法学に関する社会問題の整理、先行研究の調査等を通じて新規性・有用性のある研究テーマを探索します。これらの学修を通じて、学識・専門技能に加え、意欲・経験・適性、判断力・思考力・表現力、主体性・計画性・協働性といった各汎用的能力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 当科目では、学生による2カ年間の自主的な研究活動の第一段階として、企業法学・経済法学的アプローチによって解決すべき危機管理上の社会的課題の抽出、先行研究の検索と整理・検討からはじめて、その問題解決を学術的に研究するための研究計画を立案します。						
総合到達目標	■危機管理に関する企業法学・経済法学的問題に対し、強い関心をもって客観的に洞察することができる。 ・危機管理上の問題を、自己の経験や目標と関連付け、研究意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ・危機管理上の問題について、学術的な研究対象として洞察することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学に関する問題を企業法学・経済法学的な手法によって分析することができる。 ・危機管理上の問題を、企業法学・経済法学の理論や概念に基づいて読解することができる（第1回～15回）。 ・危機管理上の問題に関連する企業法学・経済法学的研究の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ■危機管理学に関する課題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる ・危機管理や企業法学・経済法学に関する資料について、用語の意義や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・企業法学・経済法学の社会調査や統計解析に関する用語や意味を適切に把握し、読解やデータ解釈に活用することができる（第1回～15回）。 ■危機管理に関する企業法学・経済法学的問題について、客観的・論理的なコミュニケーションを通じて議論することができる ・危機管理上の諸課題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、分野固有の規律に従って、口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。						
成績評価方法	■定期試験 1 回（50%）：DP2(50%) （評価の観点）選択式問題により、授業で説明された内容について、正確に理解しているかどうか確認します。 （フィードバックの方法） Google Classroomを通じて試験のポイントを解説します。 ■レポート 1 回（50%）：DP1:20% DP4:30% （評価の観点）レポートの内容が課題の解答様式に合っているか、参考文献、引用の表示が正しく行われているか注意して確認します。 （フィードバックの方法） Google Classroomを通じてポイントを説明します。						
履修条件	特になし。						
履修上の注意点	特になし。						
授業内容	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>			回	内容		
回	内容						

[illegible]

	14 ①授業テーマ 危機管理に関する企業法学・経済法学的研究の研究計画作成(13) ②授業概要 危機管理と企業法学・経済法学に関する社会問題や先行研究を調査し、報告資料にまとめてプレゼンするとともに、受講者同士のディスカッションを通じてその課題の抽出と解決方法の提案、検証が行えるようになる (DP-1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と企業法学・経済法学に関する先行研究を調査し、その書誌情報と概要をリスト化する。 ④復習 (120分) ディスカッションの論点を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果をクラスに報告する。 15 ①授業テーマ 授業総括 ②授業概要 授業総括を通じて、当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになるとともに、授業参加度のフィードバックを通じて学識・専門技能、意欲・経験・適性、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性に関する気づきや成長について具体例を挙げながら説明することができる (DP-2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 授業ノートと配布資料を読み直し、科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度を論じられるように準備する。 ④復習 (120分) 授業総括および教員からのフィードバック内容を振り返り、自分の考えを再検証する。さらに、当科目の到達度を自己評価し、到達目標達成のために必要な課題を自ら選定して実施・提出する。
関連科目	危機管理学研究演習Ⅱ(RSMR0030)、危機管理学研究演習Ⅲ(RSMR0031)、危機管理学研究演習Ⅳ(RSMR0032)
教科書	特に指定しません。
参考書・参考URL	授業内において適宜指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 開講年度のオフィスアワーリストをご確認ください。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取って下さい。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%; パブリックセキュリティ25%; グローバルセキュリティ25%; 情報セキュリティ25% ■危機管理と法学のバランス 危機管理40%; 法学60%

